

Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

第4号

平成27年6月2日

編集・発行

学校支援課 広報担当

「観察・実験活動の充実した理科授業」を目指して

文部科学省より委託を受け、平成25年度よりスタートした、「理科の観察・実験等に関する研究協議」も3回目になりました。

この事業は、各学校の研究・研修の中核的な役割を担う先生方が集まり、理科の観察・実験の指導力向上を図るため、また、小中の理科教育の接続を円滑にするためのものです。

今回は5月11日(月)、19日(火)、20日(水)、総合教育センターにおいて、東、中央、秋葉、南区の中核的な先生方が集まり、実際に観察・実験を通して協議を行いました。子どもの気持ちを考えながら、観察・実験に取り組んだ先生方からは、以下のような感想が寄せられました。

「子どもたちがなぜだろうと探求したくなるような授業を目指したい。」(小、中学校)

「子どもの言葉で、課題と正対したまとめを考察から導き出したい。」(小学校)

「比べたり、条件をそろえたりと実験を行うに当たって気をつけることを常に意識して学習を進めたい。」(小学校)

「小学校で学習したことをもとに、生徒に考えさせることができるようにしたい。」(中学校)

各学校において理科教育の中核を担う先生方が、協議を通じて、実感したことを学校にもち帰り、広めています。



「2色の水が混ざらないようにする」(5年)課題に真剣に取り組む先生方



班ごとに違う、「太さが違う電熱線の発熱を比べる実験」(6年)の結果をどのようにまとめていけるかを協議する先生方



子どもたちと同じ気持ちになって、強い磁石の現象(3年)に驚く先生方



計画訪問がスタートしました。 ～よりよい学習課題を求めて～

5月19日より、今年度の計画訪問がスタートしました。「学習課題とまとめ」をしっかり位置づけた授業を、継続して行っている学校からは、着実に成果が上がっているとの声が寄せられています。

一方で、「学習課題」はあるんだけど、子どもが解決したいと思っていなかったり(①情意性)、学級みんなで解決したいものでなかったり(②集団性)、そもそも学ぶ内容とは違う(③内容性)、というものも見受けられます。今一度、学習課題を設定する前に、この3つの視点から見直してみたいはいかがでしょうか？以下のイメージ図を参考にしてください。

学習課題を見直す3つの視点

